

湊川相野学園 ニュース

発行: 2020年4月
湊川相野学園理事長室会

No.

65

ひとを育て、ともに歩んで100周年



みなとがわ人物紹介



湊川短期大学地域連携センター長
三田市地域子育て支援センター長

大前 衛 先生

「湊川短期大学地域連携センター長」「三田市地域子育て支援センター長」に前短大学長 大前 衛氏就任。昭和41年より奉職歴54年の大前 衛先生が、今年度4月1日より、短期大学の二つのセンター長に就任されましたので、それぞれの活動内容をお聞きました。

『地域連携センター』は、短大の人的資源・研究成果を活用して、地域社会との連携を通じて地域の発展に貢献するとともに、地域社会の資源を活用した教育を展開することが目的の業務であります。

『三田市地域子育てセンター』は、三田市からの要請を受け、地域子育て支援の拠点としての役割を果たし、子育て親子の交流を促進し、様々な子育てに関する情報交換と相談の場を提供することが目的です。」

「二つのセンターの活動を通して、湊川短期大学が、地域と共に歩む姿勢や次世代を見据えた取り組みをもって、学生のみならず多くの人々に愛される存在でありたいと思います。」とのことでした。



三田松聖高等学校
川崎 宏紀 校長

三田松聖高等学校 校長に川崎宏紀先生が就任されましたので、取材しました。

Q.昨年までの、教頭としての立場と比べて変化したことは？

「今までは校長の指針に沿って、その方向へ向かって努力をすればよかったのですが、これからは様々な方のご意見を参考に、自らが学校の方向性を決めなければならないことの重要性を感じています。」

Q.校長としてのビジョンは？

「本校の学が魅力的で、期待感あふれるもので、本校に進学すれば自分の夢が叶えられると確信を持って選択してくれる学校にしたいです。それには、夢や目標を実現した卒業生の紹介や、在学時だけでなく学園とのより永い関わりによって、どのようなメリットがあるのかを発信できればと思っています。」

Q.生徒たちへのメッセージは？

「まず、食わず嫌いにならないで欲しい…。何事も、まず受け入れてから選択する姿勢でいてほしいですね。そして、どのような道に進んでも、例えばプチダイヤモンドのように、小さくても本物の光を放つ人になって欲しいです。」

Q.近況をどのように感じていますか？

「何事においてもスピード感が要求される時代になっていると思います。高校生活は、人間が社会組織の一員として生活する基礎をつくる大切な時間です。迅速な対応ができる社会人となるよう、基本を大切に指導・支援をしたいと考えています。」とのことでした。



湊川短期大学附属ぼるとこども園
萩原文 園長

今春4月から市内えるむムプラザにある、湊川短期大学附属ぼるとこども園の園長に就任された萩原 文(あや)先生を取材しました。

湊川短期大学・幼児教育学科卒業後、市内保育園での実務経験を経て、ふるさとの学園に戻られたという感じです。「両親が教育者ということで、逆に、教育関係に関わらない仕事に就くかもしれないと思っていましたが、気が付くとやはりその道へ進んでいました。」とのこと。

Q.休日の過ごし方や趣味は？

「二児の母でもあり、炊事洗濯など家事に追われることが多いので、趣味などを意識する 때가あまりありません。ただ、私は昔から本が大好きなので、ジャンルを問わず様々な本を時間を見つけて読んでいます。」

Q.当学園の魅力をお聞きました。

「家庭的な優しさあふれる学園だと思います。また、附属各園、さらに短大・高校と当学園の多岐にわたる組織的な対応力をありがたく感じます。」

Q.どのようなことを目指して保育していますか？

「お預かりしている子どもたちが、園内にいるときに幸せと感じてもらえるような接し方を目指して頑張ります。」という元気いっぱいの園長でした。